

渡 辺 義 介 賞



新日本製鉄(株)常任顧問

細 木 繁 郎 君

わが国鉄鋼技術の進歩と開発

君は昭和19年9月東京帝国大学第一工学部機械工学科を卒業後直ちに日本製鉄(株)に入社、改組により昭和25年富士製鉄勤務となつてからは昭和33年広畑製鉄所製鋼部熱延課長、37年本社生産管理部製鋼管理課長、同副長、40年広畑製鉄所冷延部長、同名古屋製鉄所技術管理部長、昭和45年新日本製鉄(株)発足後、46年本社研究開発本部技術開発部長を歴任した。50年取締役、56年常務取締役・大分製鉄所長、58年専務取締役技術本部長、60年取締役副社長中央研究本部長に就任、62年6月常任顧問を委嘱され、現在に至っている。

この間、次に述べるとおり、わが国鉄鋼業の進歩発展に多大の業績をあげた。

1. 熱冷延鋼板製造技術の確立

君は、我が国初の4フィート広幅の連続式冷間圧延機を極めて短期間に商業生産に乗せ、またその後も冷延鋼板工場の能力増強や熱延分塊工場の新設において導入技術の定着とこれに独創的な改善を加えるなど、常に工場操業の第一線にあつて近代的鋼板製造技術の確立に携わり、今日の我が国の熱冷延鋼板製造技術の礎を築いた。

2. 鉄鋼技術の開発・研究

君は技術開発部長として、研究開発の効率的編成および強化充実のため、基礎研究・製品研究及び製造研究の三分野に整理統合するとともに、研究開発の計画的推進体制の整備に努め、開発体制の基本的骨格を確立させた。また研究開発を設備開発機能を合わせ持つ一貫した研究プロジェクトへと短時日のうちに拡大再編するなど、君の卓越した指導力をもつて新プロセス技術のみならず多くの新製品開発にと画期的な成果を実現した。

また君は技術本部長として、低成長時代における生産体制の整備あるいは販売部門の要請を的確に反映した製品製造管理体制の効率的運営に努めるとともに、鉄鋼製造からの業容拡大を目指す同社の多角化戦略に研究開発の側面から資するため、石炭化学、無機材料および非鉄・超合金分野等に関する研究体制の拡充にも着目し、大きな役割を果たした。

更に中央研究本部長に転じた君は、従来の鉄鋼製造・製品に関する研究開発はもとより新素材分野及び化学分野の研究においても着実な展開を図り事業多角化に大きく貢献した。

かかる技術・研究開発力の充実と数多くの研究成果は経営基盤の強化となり、我が国鉄鋼業の発展に極めて大きな貢献があつた。

3. 科学技術振興への貢献

君は社業に専心する一方、通産省工業技術院技術開発の展望研究会理事、科学技術庁金属材料技術研究所運営委員会委員、科学技術会議総合計画部会専門委員等の公職をはじめ、(社)日本鉄鋼協会理事、評議員、共同研究会幹事長、(社)日本鉄鋼連盟鉄鋼技術政策委員会副委員長等、諸団体の数多くの要職を歴任し、鉄鋼技術分野にとどまらず、広く我が国の科学技術振興にもその深い学識と豊富な経験によつて多大の貢献をなしている。また現在も財団法人金属系材料研究開発センター理事長として広く我が国の先端産業分野を支える金属材料の開発・実用化研究の推進にあたつても指導的地位を占めている。